

総合資料館だより

2009.1.1 No.158



正月の行事食—歯固の儀—

この資料は、享保6(1721)年に大隈信時が「類従雑要抄」などの古記録類から復原して描いたものです。主に、正月の「歯固め」や「元服」の時に天皇に差し出す飲食物を丁寧に描いています。資料の名前は「高橋大隈両家秘伝供御式目」といいます。この高橋家や大隈家は天皇の朝夕の御膳を掌っていた「御厨子所預」という役職を代々世襲していました。いずれも地下官人ですので、地位は高くありませんが、儀式の時の食事を用意したりしましたので、有職にはかなり詳しくったようです。

この内、「歯固め」の儀式は、正月の元日から三日まで、長寿を祈るために、天皇に対して押鮎、大根、瓜、猪宍・鹿宍などを献上する儀式です。清涼殿の昼御座で行われました。儀式の時の食事は、全般的に平安時代中期以降は箸をつけるだけで、実際には食べることはありません。箸をつけるだけで食べたことに見立てたのです。

上の図は当館所蔵の貴重書「高橋大隅両家秘伝供御式目」の部分です。

この資料は京都府立総合資料館ホームページの『貴重書データベース』でご覧いただけます。

目次	正月の行事食—歯固の儀— ……………1	平成21年知事年頭あいさつ ……………2
	歴史資料課の窓から「東寺門前の風景(4)」 ……3	文献課の窓から「100年前の1000円—旧分類の図書続々編—」 ……4
	公開資料紹介「京都における戦後処理」 ……5	最近の収集資料から ……………6
	「総合資料館収蔵品展」、「東寺百合文書」第6巻を刊行 ……7	友の会事務局から 古文書相談のご案内 他 ……8

平成21年知事年頭あいさつ



府民生活を支える「力」を集めて、 信頼の「京都」へ

京都府知事 山田 啓二

府民の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、北京オリンピックで京都府ゆかりの多くの選手が活躍され、また、京都と縁の深い益川敏英氏、小林誠氏、下村脩氏がノーベル賞を受賞されるなど、京都府民として誇らしい年となりました。また、源氏物語千年紀では、記念式典に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、「古典の日」宣言を行うなど京都の未来を文化の力で照らす大きな可能性を示すことができました。

ただその一方で、世界的な金融危機が景気の急速な後退をもたらし、府民生活に大きな影を落とすつつあり、生活への不安感が拡大したまま新たな年を迎えることになりました。

しかも、このような厳しい経済状況の中で、府民を支えていかなければならない立場の京都府において一連の経理不祥事が起きたことは、誠に申し訳なく思っており、心からおわび申し上げます。府民の皆様の信頼を回復していくためには、徹底した再発防止と、京都府が厳しい時期を乗り切るべく死力を尽くすことしかないと考えております。

それだけに、今年は、今一番厳しい立場にある中小企業や雇用の不安を抱えている人たち、また高齢者や障害のある方々など社会的に弱い立場にある人たちをしっかりと支えていく府政を第一に、その上に「京都の持つ豊かな力」が発揮できるよう、府民生活の基盤である「地域」に活力を取り戻し、京都の産業力を強化するための取り組みを進めていきたいと考えています。

ありがたいことに「京都」には、長い歴史の中で常に新しいものを生み出し続けてきた文化力と環境と共生しながら創り上げてきた思いやりの心があります。この京都の「力」と「心」こそが今の厳しい時代を乗り切る鍵であり、「心の世紀」21世紀の日本のモデルを京都から発信していきたいと思っております。こうした京都の力は、京都の人の力であり、京都の心は京都の人の心です。行政は、京都の人たちが力を発揮できる環境を整え、京都の「人」のパワーアップを行う機関でなければなりません。

京都府では一昨年来、「地域力の再生」を目標に掲げ、地域でがんばる皆様とともに、地域が元気になる取り組みを進めてまいりました。これまで700を超える連携・協働の活動が行われており、まさに京都の力を増し、京都の心を発揮する取り組みの輪が広がっています。他にも、総合就業支援拠点「京都ジョブパーク」、京都モデルフォレスト、京都産業エコ推進機構などの取り組みが、皆様との連携・協働で着実に成果を上げています。また、平成23年には、「国民文化祭・京都2011」が開催されます。

これからも、京都府庁も府民サービスの最大化を目指して、すべての施策が府民起点で行われるよう全力を挙げて改革に取り組んでまいります。府民の皆様にも、京都を良くし、京都の力をアップし、京都の心を発揮する多くの取り組みにご理解をいただき、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

結びに当たり、この一年の府民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

東寺門前の風景(4) —西院御影供の日—

「弘法さん」の呼称で親しまれている西院御影供は、弘法大師の祥月命日にあたる延応2(1240)年3月21日に初めて行われました。今日も毎月21日の御影供の日は、多くの参詣者が訪れ、境内及び南大門・慶賀門・北大門附近には多数の露店が立ち並び、大変な賑わいを呈します。では昔の「弘法さん」は、どのような様子であったのか、遡って垣間見ることにしましょう。

写真1は、寛政年間(1789~1801)のある年の3月21日、御影供当日の北大門附近の様子を描いたものです。この図会には、島原の太夫をはじめ、武士・僧侶・町人・旅人・親子連れなど様々な身分の老若男女とともに、薬屋・うどん屋・植木屋などが描かれています。ここから、今日の御影供同様、江戸時代にも露店が出て、大層な賑わいをみせていたことがうかがえます。



▲東寺御影供『都林泉名勝図会 巻一』(写真1)

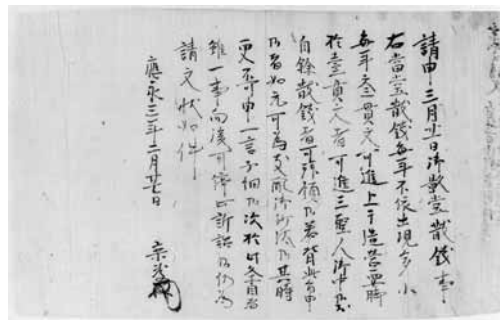
さて、中世の時期ですが、この図会のような視覚的な資料はありません。そこで古文書から見ることにします。



▲沙弥理観金銅不動明王像寄進状(写真2)

写真2は、暦応4(1341)年5月21日、御影供の日、沙弥理観が現世と来世の福德のために不動明王像1体を御影堂に寄附した寄進状です。この奥書に、京中の取り締まりをする検非違使の官人である中原章有が、参詣の最中に偶然通りかかり、後の証拠とするために署判を加えたとあります。このことから、当時も御影供の日

には、多数の参詣者があったことがうかがい知れます。



▲乗慶御影堂散銭請文(写真3)

写真3は、応永3(1396)年2月27日、御影堂を管理をする北面預乗慶が、来る3月21日の御影供での賽銭の管理請負に関して、東寺に出した請文です。この中で乗慶は賽銭総額の内、3貫文は造営要脚(費用)とし、1貫文は御影堂内の大師像に奉仕する三聖人に差し出し、残りを北面預の取り分とするとしています。全体の見込総額をいくらに設定しての金額かわかりませんが、相当の額であったと思われます。



▲廿一口供僧評定引付(写真4)

また、写真4の『廿一口供僧評定引付』文明10(1478)年3月4日条の記事に、戦乱の無い時の御影供ならば賽銭額は1日で40~50貫文にもなります。ついで造営要脚分と三聖人には6貫文にあたる賽銭の7分の1を召されればよいとも記されています。この額から、仮に1人の参詣者が1文の賽銭を施したとしますと、5万人にあたります。

このような資料から、露店の存在は定かではありませんが、南北朝期・室町時代においても「弘法さん」の日は、今日と同様に大変な人出があったことがわかります。

京都における戦後処理 —新公開資料から—

はじめに

京都では大規模な空襲が少なかったこともあって、アジア・太平洋戦争の影響について、意識されることが少ないようです。しかし、2008年8月以降に新たに整理・公開した資料約3200点（その他の資料も含む）からは、戦争の影響が京都府域でも大きかったことが読みとれます。

1 援護関係事業

戦争によって負傷した方、また戦病死された方の遺族等に対しての、国家補償の精神に基づいた公的な援護は、戦後直後から現在にいたるまで行われています。また、中国残留ののち帰国された方に対しても援護が行われています。

今回公開した資料には、戦争中から府の援護事業担当者が引き継いできた資料が多く含まれています。戦死者の情報を整理した綴り、復員事務にかかわる書類、援護事務に関する通達類、傷病・遺族年金に関する通知、陸軍病院での記録などが含まれています。京都府域から戦争に動員された人々とその遺族の状況が把握できる可能性がある資料となっています。



▲新公開資料の収蔵状況

2 残留・未帰還・引揚援護関係の資料

また、満蒙開拓団をはじめとして、大陸に残留してしまった人々に関する資料も多数公開しています。満蒙開拓団の団員名簿や昭和30年代に編纂された残留者名、戦後の援護に関する資料が散見されます。

これらの資料には、自らも開拓団の一員で、帰国後民間にあつて援護事業に協力された方がまとめられた資料もあり、京都からの開拓団として有名な平安郷開拓団に関する記録（昭31-

480）も含まれます。

また、ソビエト連邦内で未帰還となっている人々に関する資料（昭24-479、485～488）などもある。戦後処理の困難さを思い起こさせます。

さらに、舞鶴まで早期に帰国したものの、引き揚げの過程で財産を失ったり、敗戦間際の根こそぎ動員や、敗戦後の徴発で男手を失い母子だけになった人など、生活に困難を抱える人々を援護するために設置された引揚者住宅に関する資料もあります。

3 在日朝鮮人帰国事業関係の資料

敗戦後、植民地朝鮮の独立によって外国人の扱いとなり、かつ生活基盤が不安定であった朝鮮出身者の多くは、差別と貧困にあえいでおり、大きな社会問題になっていました。

昭和28(1953)年7月に朝鮮戦争の休戦協定が結ばれたのち、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）からの要求と、在日朝鮮人の祖国に帰りたいという運動があいまって、昭和34(1959)年12月から北朝鮮帰還事業が始められます。

公開した資料には、各所からの通達や帰国港となった新潟港への府域などからの輸送計画、各団体からの要望書などがあり、事務の概要と各団体の動向を知ることができます。

おわりに

これらの資料の目録は当館の文書閲覧室に備えています。また、一部は当館ホームページでもご覧いただけます。

個人情報等保護のため、閲覧を制限している箇所も多くありますが、ご了承くださいませようお願いします。多くのご利用をお待ちしております。

当館では、今後も戦後資料を中心に行政文書の公開を進めて行く方針です。お手元や関係先の戦後資料もまた、大事にしていればと存じます。

【参考文献】

京都府『援護事業のあらし』(各年度版)
編集委員会1997『援護50年史』(ぎょうせい)
(歴史資料課行政文書担当 福島幸宏)

最近の収集資料から(平成20年9月～平成20年11月)

◆図書資料

〈京都〉

中世醍醐寺と真言密教 藤井雅子著 勉誠出版
2008 6, 337, 11p

京都守護職日誌 第1～5巻 菊地明編 新人物
往来社 2008 5冊

探訪京都・上賀茂と二つの鞍馬街道 その今昔
西村勁一郎著 新日本プロセス 2008 162p
寄贈

京・嵯峨嵐山の伝承を歩く 山寄泰正著 ふた
ば書房 2008 206p 寄贈

宮津 名勝天橋立を望む城下町 宮津まちなか
観光推進協会編刊 2008 153p 寄贈

嵯峨祭の歩み その起源・構造・変遷 古川修
著 京都新聞出版センター(制作) 2008 193p
図版5枚 寄贈

鼓動 同志社創立130周年記念写真集編集委員
会編 同志社大学 2007 179p 寄贈

京きものデザイン下絵集 八重山琉染蔵 1～
3 山岡古都編 東方出版 2007～2008 3冊

裏千家今日庵歴代 第1～9巻 千宗室監修
淡交社 2008 9冊 以後継続(全14巻)

〈人文〉

図書館史 和田万吉著 慧文社 2008 299p

計量書誌学辞典 ヴァージル・ディオダート著
日本図書館協会 2008 211p

新聞の歴史 写真・絵画集成 1～3 羽島知
之編著 日本図書センター 1997 3冊

黒草紙・新黒双紙〈薬師寺所蔵〉 奈良文化財研
究所編刊 2007 369p (奈良文化財研究所史
料 第78冊) 寄贈

大系真宗史料 伝記編3, 6・文書記録編11
真宗史料刊行会編 法藏館 2007～2008 3冊
以後継続(全25別1巻)

律令官人制と地域社会 中村順昭著 吉川弘文
館 2008 8, 354, 11p

汎アジアの仏教美術 宮治昭先生献呈論文集編
集委員会編 中央公論美術出版 2008 492p

宇治拾遺物語絵巻 チェスター・ビーティ
ー・ライブラリィ所蔵 小林保治・村重寧解説 勉
誠出版 2008 107p (甞る絵巻・絵本)

石刻千字文 上・中・下巻 安岡孝一編 京都
大学21世紀COE「東アジア世界の人文情報学研
究教育拠点」 2008 3冊 寄贈

〈官庁〉

時局ニ対スル蚕糸業上ノ注意 臨時報告 東京
蚕業講習所, 京都蚕業講習所[編]刊 1904 53p

地価調査 平成20年 京都府[編]刊 [2008]
118p

京都市長選挙結果調 平成20年2月17日執行
京都市選挙管理委員会編刊 2008 68p 寄贈

長岡京市統計書 平成19年版 長岡京市総務部
総務課編刊 2008 110p 寄贈

市民の声 平成19年度版 城陽市市長公室市民
活動支援室[編]刊 2008 21p 寄贈

「平成の合併」をめぐる実態と評価 道州制と
町村に関する研究会, 全国町村会[編]刊
2008 109p 寄贈

中小企業施策総覧 中小企業庁施策の解説書
平成20年度 中小企業庁編 中小企業総合研究
機構 2008 512p

国際連合世界人口年鑑 Vol. 56(2004) 国際
連合経済社会総局編 原書房 2008 797p

ジェトロアグロトレード・ハンドブック 日本
貿易振興機構編刊 2008 8, 511p

◆行政文書文書資料(新しく公開する資料)

在日朝鮮人帰還事業関係資料 28点。

引揚者住宅関係資料 35点。

※有期限行政文書として整理した資料を、テ
ーマごとに順次公開の予定です。

(ご利用にあたっては、当館ホームページか閲覧室
備え付けの目録をご覧下さい。資料の損傷状況、個人
情報保護の観点から閲覧に提供できない資料も
あります。あらかじめご了承ください。)

総合資料館収蔵品展

図書、古文書、行政文書、写真資料等、多岐にわたる所蔵資料を幅広く紹介します。

会期 平成21年2月28日(土)～3月29日(日)
(3月11日(水)、20日(祝)は休館)

会場 京都府立総合資料館 2階展示室
(入場無料)

展示内容

- ◇和算関係資料(図書資料)
- ◇古文書解説講座の古文書から(古文書)
- ◇新公開資料の紹介—京都府の戦後処理・知事室の資料・社寺関係資料・新市町村建設計画—(行政文書)
- ◇100年前の学校の風景(写真資料)

■関連行事「寺子屋講座」

総合資料館が所蔵する本物の歴史資料に触れて、昔の文字や算数を学びます。

対象：小学校高学年以上(定員各先着20名)

□よみかき編—資料にさわろう—

3月7日(土) 午前10時30分～11時30分

*文書の実物に触れます。

□そろばん編—江戸の算術—

3月14日(土)、26日(木) (両日とも同内容)

午前10時30分～11時30分

*算木による計算にも挑戦します。

(※)参加ご希望の方は、氏名、電話番号を明記し、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。

<満席で参加をお断りする場合のみ連絡します>

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館 庶務課

TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466

メール shiryokan-shomu@pref.kyoto.lg.jp

「東寺百合文書」第6巻を刊行

当館では、所蔵している国宝東寺百合文書の翻刻事業を行っています。今年度、その第6巻を刊行しましたので、概要を紹介します。

翻刻は、文書を納めている箱(「イ函」「ロ函」、「い函」「ろ函」のように呼ばれる)ごとに、片仮名の箱をイ・ロ・ハ…の順に進めています。この巻には「ハ函」の180点と「ニ函」の43点を収めました。

「ハ函」の文書は、時期的には室町時代の宝徳3(1451)年から安土・桃山時代の天正14(1586)年に至り、大半が若狭国太良荘(現在の福井県小浜市)に関するものです。

太良荘は鎌倉時代の建保4(1216)年に成立し、仁治元(1240)年に東寺領となった荘園で、早くから数多くの著作や論文が発表され、特に研究が進んでいるところです。

この巻にはその経済基盤を究明するための基礎資料となる年貢算用状のほか、室町幕府・若狭国守護からの命令を伝える文書が含まれています。また、現地百姓や荘官(荘園の管理者)の言い分を訴える申状などは欠年のものも多いのですが、その7割近くに、新たに年代推定を加えることが出来ました。これらには当時の実状や考え方などが反映されており、中世荘園の様相を示す好適資料であって、研究がさらに進展するものと期待されます。

「ニ函」の43点は、平安時代の長元3(1030)年から室町時代の応永20(1413)年までの文書であり、山城国内・東寺寺辺所領・寺内に関するものが中心となっています。室町幕府管領畠山基国・斯波義将、山城国守護高師英などの文書が含まれます。

第6巻の概要

書名	「東寺百合文書 六」
内容	ハ函180点・ニ函43点
規格	A5判
頁数	452頁
定価	9,500円(本体価格)
発行者	(株)思文閣出版
発行日	平成20年10月1日

友の会事務局から

◎21年度「友の会」会員募集

- ◇会費 年額 2,000円（4月～翌年3月）
- ◇申込方法 所定の申込用紙兼払込取扱票に必要事項を記入の上、会費を郵便局に払い込んでください。
- ◇受付期間 1月6日(火)～3月19日(木)
- ◇詳しくは友の会事務局（総合資料館庶務課内 TEL 075-723-4831）までお尋ねください。

◎ 平成20年度の見学会を、10月30日、31日の両日実施し、122名の会員の皆さんの参加を得て、三重県伊賀市の伊賀焼伝統産業会館、伊賀焼窯元 長谷園、芭蕉翁記念館、伊賀流忍者博物館、

だんじり会館
などを訪ねま
した。

伊賀上野の
歴史と文化の

一端に触れる1日でした。
また、10月21日には、伊賀文化産業協会専務理事の福井健二氏を講師に迎えて、事前学習講演会「藤堂高虎と上野城」を開催し、好評のうちに終了しました。

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解説についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834



日誌（平成20年9月～11月）

- 9. 12(金) 府民講座（第52回）
- 9. 27(土)～10. 26(日) 第23回東寺百合文書展
- 10. 14(火) 府民講座(第53回)
- 10. 29(水) 府民講座(第54回)
- 11. 4(火) 第7回古文書解説講座(初心者A・Bコース)
- 11. 5(水)～11. 7(金) 第7回古文書解説講座(初心者Aコース)
- 11. 7(金) 府民講座(第55回)
- 11. 11(火)、13(木)、14(金) 第7回古文書解説講座(初心者Bコース)
- 11. 18(火)～11. 21(金) 第7回古文書解説講座(一般Cコース)
- 11. 25(火)～11. 28(金) 第7回古文書解説講座(一般Dコース)

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始（12月28日～1月4日）

〔1月～3月の休館日〕

12月28日(日)～1月4日(日)、1月12日(祝)、
1月14日(水)、2月11日(祝)、3月11日(水)、
3月20日(祝)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④ ⑧ 北山駅前下車
京都バス ④⑤ ⑥ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4
TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています